



4/16-17  
BIWAKO  
SPORTS LAND



5/28-29  
AUTO PARADISE  
GOTENBA



6/18-19  
FESTIKA CIRCUIT  
MIZUNAMI



7/23-24  
KOBE  
SPORTS CIRCUIT



8/27-28  
NAKAYAMA  
KART WAY



10/22-23  
SUZUKA  
CIRCUIT



## 酒井夢良、悔しい予選敗退 今後の成長を誓う最終戦に

### 2016年 全日本カート選手権 FS-125 東西統一競技会

■開催日:10月22~23日 ■開催場所:三重県・鈴鹿サーキット国際南コース ■天候:曇り ■路面状況:ドライ ■参加台数:52台

全日本カート選手権FS125クラスもいよいよ最終戦を迎えた。今大会は東西統一競技会となり、これまで東・西各地域で転戦してきたドライバーが鈴鹿サーキット国際南コースに一堂に会して戦う、いわば集大成のレースだ。チャンピオンは既に前戦で決していたが、真の日本一を決める大会として関係者の注目を集めた。

FS125のエントリー台数は大会中最多の52台で、16台が予選落ちとなる。今回はKFクラス用タイヤが作り出す独特の路面にも対応しなければならないが、西地域のドライバーがKFクラスと共に走行したのは雨模様の瑞浪大会のみで、もてぎ、茂原、SUGOと3大会がKF併催の東地域のドライバーの方が経験値は高く西地域のドライバーは苦戦を強いられた。酒井も路面に悩んだ。土曜日に行われたタイムトライアルではマシンが滑る症状に苦しみ総合35位となったため、日曜日にはこれまでのセッティングをリセットし、ドライビングもさらに改良して公式練習に挑んだ。



### YAMAHA Racing Jr

ヤマハレーシングのジュニアチームとして全日本カート選手権FS-125部門の選手サポートを行うことにしました。本年は同西地域に参戦する酒井夢良選手のサポートを行います。

尚、当プロジェクトは、サポートするチームは固定せず選手に対するサポートとし、毎年ヤマハが支援する選手を選考します。

▶ 監督	高橋 和則
▶ アドバイザー	北條 裕
▶ ドライバー	酒井 夢良



東西統一戦 タイムトライアル:35位 予選:リタイア セカンドチャンスヒート:14位

### 予選ヒート (12周)

予選はAグループの18番グリッドからと、無条件で決勝に進出するには4ポジションを上げる必要がある。追い上げを期してスタートした酒井だったが、スタート直後の1コーナーで前走者に乗り上げて止まってしまう、リスタート後もマシンのダメージからタイムが上がらずピットインを余儀なくされリタイア。セカンドチャンスヒート (敗者復活戦) に望みをつなぐこととなった。

### セカンドチャンスヒート (8周)

セカンドチャンスヒートは8周、24台で上位6位までの決勝進出枠を争う。14番手からスタートした酒井は、序盤に起きた数々のクラッシュを冷静に回避、良いコンディションで残っているタイヤのグリップ力を生かして前を追う。51秒658と上位に比べて遜色ないラップタイムを刻み懸命に走るも、結果は14位で予選敗退となった。

### 2016年 全日本カート選手権 FS-125 東西統一競技会 リザルト (52台)

Pos.	No.	Driver	Team	Lap
1	25	小川 颯太	FLAX Motor sports	22
2	5	佐藤 蓮	FLAX Motor sports	22
予選敗退	13	酒井 夢良	YAMAHA Racing Jr	

## 高橋 和則 監督

今回は一年を通して一番実力が表れたレースだったかもしれません。彼自身、本当の自分の姿や今後への改善点も見えたのではないのでしょうか。今シーズンは厳しい世界の入口に立てて良い経験になったと思います。今日があるからこそ今後出せる結果があるし、終わりではなくスタートだと位置付けて、カートに限らず平日頃から自分を磨く努力をしていてもらいたいですね。選手の育成という面では、もっと土台を作るところに重点を置くべきだったのではないかと思います。新しい取り組みの中で私も良い勉強ができましたし、またこのような機会があると嬉しいですね。

## 73 酒井 夢良 / Yura SAKAI

AGE:14



悔しいです。KFタイヤの路面に合わせたセッティングやドライビングができませんでした。

予選は気合が入りすぎて接触したので、セカンドチャンスヒートでは冷静に周囲全体を見るようにしました。クラッシュは避けられましたが、やはり思うように走れないまま終わってしまいました。

今回は考えを整理し伝えるためのメンタルトレーニングもして臨みましたが、マシンについては最後まで自分の意見が出せなかったのが残念です。一年間、全日本ならではのプレッシャーの中でレースができ、YAMAHA Racing Jrとして走れたことで色々な人に声をかけてもらうなど初めての事が多く成長した部分もありました。これからもこの経験を生かして頑張っていきたいです。